

久斗山地区公民館だより



令和2年
10月号

22日発行

久斗山地区公民館

ご挨拶

10月は例年なら秋晴れのいい天気が続き、あちこちで秋祭りや運動会が開催されて賑やかなのに、今年はコロナの影響で自粛したり、中止になって静かな秋となりました。いくつかの台風が接近しましたが、まだ日本に上陸したものはありません。しかし、いつまでも秋雨前線が停滞していて、不安定な天気が続き、すっきり爽やかな秋晴れの日がありません。気分もスッキリしませんが、元気出していきましょう。今年も残り2ヶ月となりました。やり残しはありませんか？

【収穫の秋「芋ほり体験と畑の生き物観察」を開催】

夏の間、太陽のエネルギーを葉っぱに受けて、それを土の中の根にたつぷりと蓄えた芋を収穫する時期になりました。今年の公民館長の畑には、安納芋、宮崎紅、紅あずま、金時芋の4品種のサツマイモが植えてあります。18日、午前中に「芋ほり体験と畑の生き物観察会」が開催され、16人(大人7、子ども9)の参加がありました。

9時に畑で受付、最初に芋の品種について説明してから、前もって用意してある芋をアルミホイルに包んで焚火に入れ、焼き芋にしておきます。さあ、芋ほり開始、受付の時選んだ品種と株のところに行き、土をよけて芋を掘り出します。デカイ芋が1個だけしかついてなかったり、細い芋がいっぱい付いていたり。あちこちで歓声が上がりました。今年は大きい芋が多く、大豊作です。掘っている途中でコオロギやゴミムシダマシ、大きなミミズが出てきたり、ずっと土の中に続くモグラの穴の行方を探ったりと、畑の土の中は色んな生き物がいました。芋ほりが終わって、焼けたばかりの熱々の焼き芋を食べました。安納芋と紅あずまを食べ比べ、どちらも甘くて美味しかったです。11時には終了、みんな芋が入った袋を重そうに、満足して帰っていきました。



それぞれが収穫したサツマイモの籠の前に、参加者全員で記念撮影

【岸田川の源流、畑ヶ平の滝群！ご紹介しします】

岸田川の源流はまさに滝の宝庫、数々の名瀑がありますが、今回は車で簡単に行くことができる滝をご紹介します。畑ヶ平高原は夏場に高原大根が栽培され、お盆明けから出荷しています。その農園へと通じる道路、以前は林道でしたが、今年の4月に県道に昇格しました。イワナを養殖している菅原を過ぎ右折してジグザクに曲がった急な坂道を上ると、やがてトチなどの巨木がある原生林に入ります。まず最初に出会うのがお面ヶ滝で、左手の沢の上方に目をやると、落ちる滝の水が白髪のように見えます。そこから500mほど進み、橋を渡ると路肩が広い場所で鶴滝、苔滝を見ることができます。その先に亀滝があり、さらに進むと橋の付け根に、近年、人気の出てる猿壺の滝への入口があります。道路から100mほど沢ぞいを歩くと滝に出会えます。落差は5~6mですが、横に幾筋もの流れが落ちており、横アングルで撮影できるため、多くのカメラマンが訪れます。これから紅葉の季節、さらに美しさを増す滝をどうぞ！



猿壺の滝と、手前の倒木に出たキノコのコラボ

【祝！中村恵光安泰寺第十世、新住職】

この度、中村恵光さんが、安泰寺の10代目の新住職として正式に就任されました。鳥取県米子市の出身で、以前は助産師のお仕事をしていた。



11年前、安泰寺のテレビ放映を見て、檀家を持たず自給自足するスタイルに魅かれて訪れたのがきっかけだそうです。初めて池ヶ平に来た時は、すごい山の中で驚いたけど、都会の喧騒がない静かな自然の中で気持ちが落ち着き、すぐに馴染めたそうです。12月生まれ、前住職のネルケ無法さんと同じ年。笑顔が素敵でした。

安泰寺には現在6人居て、朝と夕方の2回、2時間の座禅の時間があり、他の時間は農作業などの作務や、勉強に当てられたり、自由時間もあります。希望があれば修行の体験も受け入れているそうです。

【防獣柵の金網メッシュ納入、19日より設置作業】

農作物をシカの食害から守るため、金網のメッシュ柵で農地を囲う事業を実施します。久斗山全体の農地に設置すると14km以上になりますが、今年度は本谷と村の上で6.4kmを囲います。9月30日に金網3,612枚と支柱も同数が納入されました。17日から現場に配り、19日から設置作業にかかります。



【驚き！アケビの実が鈴生り】

子ども時代の秋の山のオヤツはアケビの実でした。その実が、本谷の下の川べりの木に200個以上も鈴生りに…最初に見つけたのは中村美好さんと山本潤一さん。二人も、こんなに実が着いたのは見た事がない！



○令和2年 11月の行事

- 1日(日) ~3日(火) 第16回新温泉町文化祭「浜坂会場」
- 8日(日) 「ふるさと講座」(10:00~12:00) 上山高原エコミュージアム
- 14日(土) 子供自然教室 「ツル籠作り」(9:00~11:00.久斗山公民館)
- 15日(日) 「椎茸植菌体験」(9:00~11:00) 上山高原エコミュージアム



クマの出没、注意！

秋が深まるにつれ、冬を前にした野生動物の活動が盛んになってきます。特にツキノワグマは人を襲うこともあります。餌を求めて人里近くに出没することが増えてきます。不容易に生ごみを捨てないように注意し、柿などの実は早めに収穫しましょう。もしクマに出会ったら、慌てないで、睨みつけながらゆっくり後ずさりして距離をとみましょう。



水から花を咲かせたコナギ

今月の野草 コナギ

田んぼの雑草として、少しやっかいな水草です。緑色の卵形やスベード形をした葉が横に広がり、水を張った田んぼにどんどん増えてきます。でも、稲刈りの終わって田んぼに残った茎からは、青色の綺麗な花を咲かせます。漢字で書くと小菰葱。字づから見て昔は食べてたそう、今でも海外では食用にする国があるそうです。

かつてに昔話 女淵の大アマゴ (第一話)

作、いつこう

曲がりくねった川の流れる中で、昔は、深くて渦を巻き青々した淵が、あちこちにできていました。淵は、夏になると子ども達が飛びこんだり潜ったりして、絶好の遊び場でした。でも、一夏に一人や二人は水の事故で亡くなることがあり、河童や主が棲むと言われるものや、ドウケ(肥溜め)の意、淵なんて名前がつくものもありました。

今回は、女淵(めぶち)と名前がついている淵にまつわるお話です。

ある川の支流のたもとに建つ小さな家に、痩せ身の青白く病持の相模をした壮年の男が、何時の頃からか棲んでいました。彼の名は溪青と呼ばれ、一時は都でちよつとは名の知れた絵描きでした。しかし、彼の描く写実的な画風は時代の風潮に合わず、やがて軽い心の病を患い、療養のためとして、人との付き合いが極力少ないかの地に引きこもる暮らしをするようになったのです。

溪青はほとんど家にこもっていましたが、晴れて爽やかな風がほとりの石に腰かけて風景に心を解き放つのでした。

溪青が目を向ける先には、周りの太い木立と岩に囲まれ、上流の滑らかな早い流れが渦を作る、青々とした淵がありました。地元ではその淵を女淵と呼び、主が棲むと言われていると知りました。しかし、溪青はそんな事知るよしもありません。ただ、淵の水面に木漏れ日が射す一瞬、大きな魚影を目にしたのです。

「あれは何だ？」(つづく)